

授業概要

科目名	生体機能代行技術学概論					授業の種類	演習	講師名				
授業回数	8	回	時間数	15	時間	1	単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	1年	前期
【授業の目的・ねらい】 医療機器全般に関する概要を知る。本講義を生体機能代行装置学、治療機器学、計測機器学を学ぶ準備という位置づけとする。												
【実務者経験】 臨床工学技士として、総合病院にて、集中治療業務、手術室業務、血液浄化業務、急性期医療に従事経験。												
【授業全体の内容の概要】 各医療機器の使用目的、構造及び機能について、臨床工学実習室での機器を用いた説明・実習及び座学にて学習する。												
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 ・医療機器全般についての概略を知り、簡単な説明が出来るようになる。												
回数	講義内容										準備物(教材)	
1	授業ガイダンス、1次救命処置（BLS）が実践できるようになる											
2	1次救命処置（BLS）が実践できるようになる											
3	血液透析回路の流れが理解できる											
4	血液透析分野における落差プライミングが可能になる											
5	人工呼吸器の回路構成が理解できる											
6	人工呼吸器の始業点検および使用中点検が実践できる											
7	人工心肺装置の回路構成が理解できる											
8	呼吸・循環・代謝以外の、その他生命維持管理装置の役割が理解できる											
9												
10												
11												
12												
13												
14												
15												
	定期筆記試験											
【使用教科書・教材・参考書】 ・臨床工学技士標準テキスト 第3版、小野哲章、金原出版株式会社												
【準備学習・時間外学習】 ・準備学習として当該範囲の予習をして授業に臨むこと ・授業内で学習した実技内容を、時間外で繰り返し実施し実践力を高めること												
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する 実技試験を30点、定期試験を70点として合計100点とする 60点以上の場合に科目を認定する												